

# 武蔵野市 住民投票案否決

## 常設型外国籍にも投票資格

### 共産党など賛成

東京都武蔵野市議会  
は21日、松下玲子市長  
が提出していた常設型  
の住民投票条例案を自

民党、公明党など14人  
の反対多数で否決しま  
した。日本共産党、立  
憲民主ネット、「自治  
と共生」など11人は案  
例案に賛成しました。

条例案は、市内に3  
カ月以上、住所がある  
市民の4分の1以上か  
ら請求があれば、議会  
の議決を経ずに住民投  
票を行う「常設型」の  
内容。外国籍の住民も  
投票資格を持つもの  
で、市によると同様の  
条例は全国でも例目。

共産党の橋本しげき  
市議は討論で、常設型  
住民投票条例について  
2月に骨子案を発表  
後、無作為抽出の市民  
アンケートなどと議論を  
重ね、8月に案案を示  
してきたと述べ、「同  
じコミュニティに暮  
らす外国人も地域の問  
題に意見を表明できる  
のは当然」と強調。自  
民党などが11月の議会  
運営委員会や議会上  
程、総務委員会への付  
託に賛成したにもかか  
わらず、突如「上程撤  
回」を主張したことを  
批判しました。

また、同党国会議員  
や一部メディアが条例  
案を「実質的な参政権

住民投票条例案に賛  
成討論を行う橋本し  
げき市議。21日、東  
京都武蔵野市議会



としたことについて、  
「住民投票は意見表明  
であり、憲法の請願権

の行使。ミスリードの  
議論だ」と批判しまし  
た。

議決後、松下市長は、  
条例案を攻撃する右翼  
団体などが市内の街宣  
でヘイトスピーチを行  
ったことについて記者  
団から問われ、「ヘイ  
トスピーチは悲しく残  
念なこと」として、「多  
様性に立ち住民が支え  
合い、認め合う社会を  
目指す」と述べました。